

「いい戦いだっただよ！」

俯きながら小さく「ありがとう」と呟くと、小柄な少女はそそくさとその場を立ち去る。少女ヒカリは今まで、一度たりとも褒められたことがない。

何故なら、自分の勝利ではないと思っっているからだ。

勝てたのはパートナーのおかげであり、自分はただ指示しただけの存在。

故に自分が褒められたのではなく、パートナーが褒められた。

寧ろ、褒められるべき存在とさえ考えていた。

「う……そ………？」

負けた。

初めて負けた。

私の指示が悪かった。私の判断が間違っていた。

私のせいだ。私のせいで負けた。私のせい、私のせいで…

ヒカリの顔はみるみる青白くなり、ついに泣き出してしまった。

「泣くことはない」

「ヒカリの指示や判断はとてもし上手だったよ」

「あそこで避ける指示がなければ、君のパートナーはもっとダメージを受けていただろう」

「もしよければ、修行してみるか？」



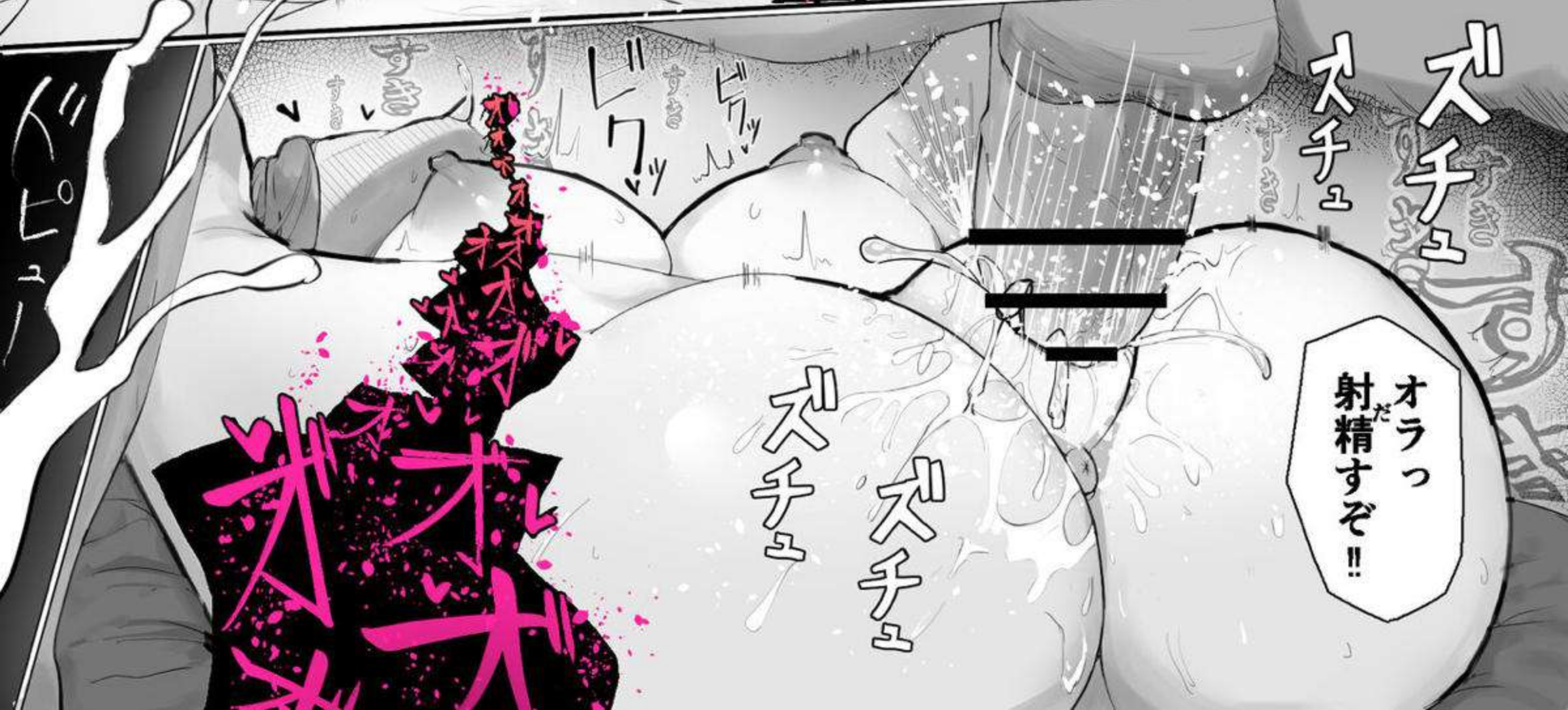
それが生まれて初めて
私を褒めてくれた

一か月後



私とご主人様の
出会いだった

ヒカリ
メカ
...



一カ月前、私はご主人様と一緒に生活をし始めました

最初はえっちな事が嫌だったけど
褒めてくれるのが嬉しくて
何でも我慢してました…

でも、たくさんえっちをする内に、

嫌ではなくなっていき



段々と
おちんぽに

逆らえ
なく
なくて



ほれ♡

…別に好きじゃないもん

汚いモノ
押し付けないで…!!



…そっか



気付けば私は

奥でイケ!!
雑魚アクメしろ
ヒカリッ!!

ドチユ

おん
まらおん



ドチユ



おおおお

いったら報告!!

ククク

えっちなことに
逆らえない



ドチユ



ごっよいオスの
ご主人様の
支配下に
されてました

おん
まらおん

ククク



ヒカリは偉いんなあ〜!!

わい

わい

ほん

うんうん

ちやーんと言うこと聞けるし

よしよーし

あ

た

ところで今のヒカリは雌犬だよな?

うん

じゃあ、犬らしくしたらもっとご褒美あげるよ

犬...?



ほん

いいね!!

よし、ご褒美をあげよう!!

お前はオレの何だ!!
言ってみろ!!

おっ♡
ほおっ♡

だったら
もっと膣内締めろ!
チンポに媚びる雌犬!

ズンッ
イケッ!!

いけよオラ!!
いけるん





おい、主人の命令だ
イクときは絶対
「おちんぽ」って言え

またイク...♡
イキムチ...♡

パッ
おちんぽ♡
おちんぽ♡
おちんぽ♡

ん
おちんぽ♡
おちんぽ♡
おちんぽ♡

ん

ドクドク

ん



なかだし
腔内射精
オナホ
するぞ雌犬!!

ああ♡
女おもちゃみてえに
イキ散らかせて
遊び倒すの金玉に効くわ♡

ドキュンッ
ドキュンッ



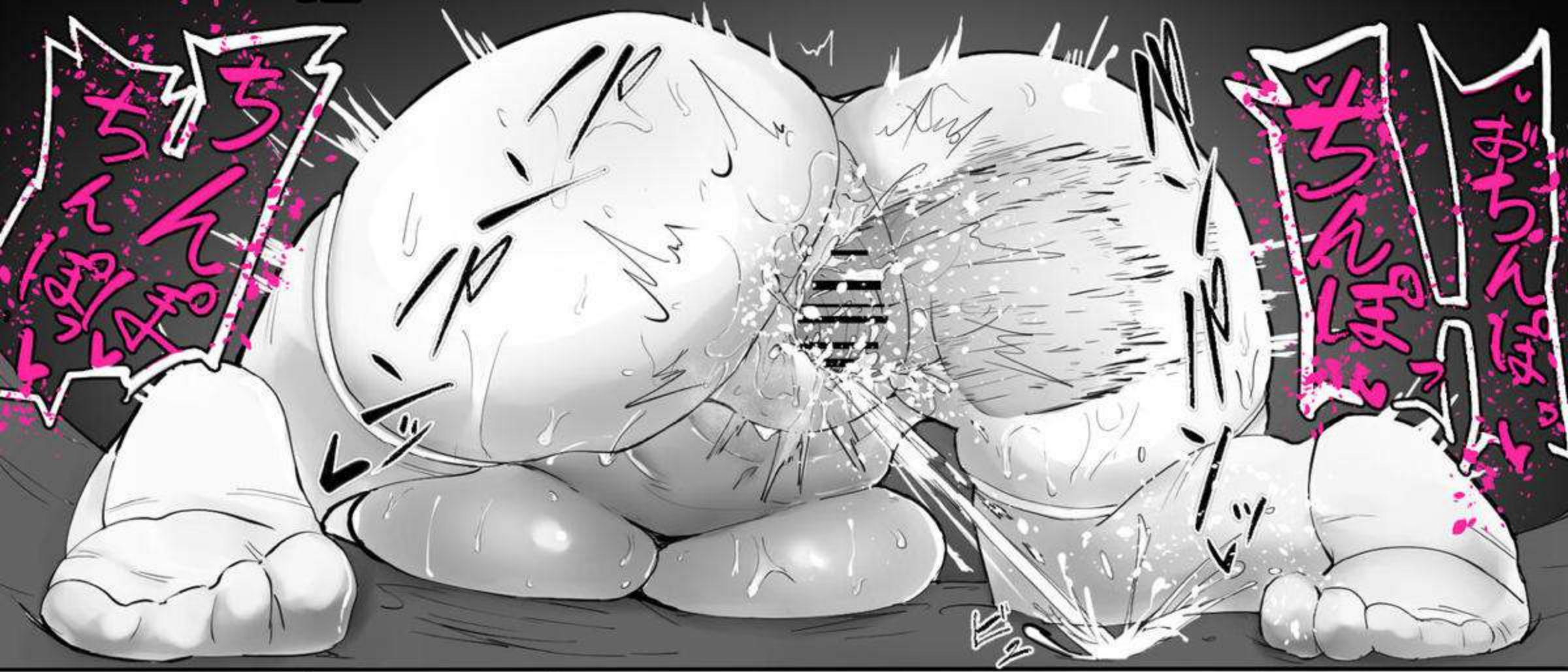
おあ

ムムムム

ドキュンッ
ドキュンッ

ドキュンッ
ドキュンッ

ムムムム



ふい〜♡
この雌犬穴
オナホ
気持ち良すぎか？

その後の私は

わんぱく
おまんこ
おまんこ

じゃあ
俺専用の
雌犬として
一生を
捧げると誓え

トクソーは一生
ご主人様の
オナホに
なすまわ
れる
どうぞ
すまわなすまわ
はなすまわ
くすまわ

黙れ

ゴクゴク

…もっかい何が好きか
言ってみろヒカリ

おちんぽっ
ご主人様のおちんぽっ

このおちんぽで
もっとおまんこ
虐めて貰いたいのか？

ゴクゴク



ご主人様の
デカイおちんぽを
毎日奉仕して
褒めて頂いてます
♡

いい子
いい子
♡♡

おまんこ
おまんこ
♡♡

たらー

上手いぞ
ヒカリ♡

おまんこ
おまんこ
♡♡

奥付

配信日: 2021/11/28
発行: どこかのよすみ
発行者: 隅々四隅
twitterID: smzm_ysm
PixivID: smzm_ysm
Mail: smzmym4444@gmail.com

※この物語はすべてフィクションであり、
実在の人物や事件、団体などには一切関係ありません。
※18歳未満の方の購入、閲覧、所持は法律で禁止されています。
※本作品内にあるすべての画像・内容等の無断転載、転写、転載を禁じます。